

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 目指す学校像 | 夢と希望をはぐくむ 楽しい向小 |
|--------|-----------------|

|      |   |
|------|---|
| 重点目標 | 1 基礎基本の確実な定着<br>2 児童一人ひとりを大切にし、美しくきれいな安心・安全な環境における豊かな心の醸成<br>3 学校・家庭・地域が連携・協働したコミュニケーション力の育成<br>4 学び続け、指導力をつけ、プロとしての誇りをもつ教師 |
|------|---|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

| 学 校 自 己 評 価 |  | 年 度 評 価   |   | 学校運営協議会による評価  |  |     |  |  |
|-------------|--|---|---|---|--|-----|--|--|
| 年 度 目 標     |  | 年 度 評 価   |   | 実施日令和6年2月26日  |  |     |  |  |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目  | 具体的方策   | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況  | 達成度 | 次年度への課題と改善策  | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等  |
| 1           | (現状)<br>○授業規律を守り、学習活動に積極的に参加する児童が多い。全国学力学習状況調査・さいたま市学習状況調査のアンケート「課題に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか」における肯定的回答の平均は90%であった。<br>○R4全国学力・学習状況調査では国語・算数ともに、R3年度より向上した。評価の観点では、国語の「思考・判断・表現」の結果が伸びている。<br>(課題)<br>○自ら新しい学びに挑戦し、開拓する児童が少なく。<br>○国語では「知識・技能」において主語・述語、漢字、敬語の使い方、「思考・判断・表現」において話すこと・聞くことに課題がある。<br>○算数では「知識・技能」において基礎的な計算の仕方、「思考・判断・表現」において目的に合った数の処理に課題がある。 | ・自ら課題を見つけ解決する力の伸長<br><br>・「知識・技能」「思考・判断・表現力」向上のため、指導の重点設定や学習活動の工夫             | ①「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習プロセスを明確にした指導を行う。<br>②対話力や言語力を身に付けさせ、議論を通して合意形成を図ったり、意思決定をしたり、自分たちの力で学びを深めたりする力を育成するために必要な事項(言語スキルや対話スキル)を系統的に指導する。 | ①さいたま市学力状況調査のアンケート「課題に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか」における肯定的回答が91%以上となったか。<br>②全教員で各学年の児童の実態を検証して結果に基づく指導法を検討することができたか。 | ①学校自己評価の児童のアンケートにおいて「自ら学び、自ら考え、コミュニケーションを通じた学習に取り組んでいる」における肯定的な回答は91%であった。<br>②学級会の話し合い活動において、発言の理由や根拠を示しながら伝える活動を全教員での研究課題として取り組んだ。                                   | B   | ①1人1台タブレットのミライシードの活用により自分の考えを表現し共に学ぶクラスメイトとの共有や意見交換ができるようになったが、その内容の質の向上を今後の授業研究において取り組んでいく。<br>②話し合い活動を通して学びの向上とその成果を他教科における活用につながるように検討していく。 | ①先生方には毎日の授業やその指導方法における研究への尽力に感謝する。児童のタブレットの活用も順調にできているようで、さらなるスキルアップを願う。自分の考えを表現し、友達との意見や情報交換をしたりすることは、今後更に高めることでより学力の向上に繋がると考える。<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・<br>①発言内容の理由や説明を相手に伝えることはより良い問題解決への大事な要素だと考える。 |
|             |  |   |   |   |  |     |  |  |
| 2           | (現状)<br>○昨年度の学校評価で「学校で楽しく過ごしている」の質問に肯定的回答をした児童の割合は97%であった。<br>○教育環境(施設・設備)の整美に努めている。<br>○特別活動(児童会活動)による積極的な生徒指導を行っている。<br>○教育相談アンケートによる相談しやすい環境作りを図っている。<br>(課題)<br>○児童自らより良い集団や学校にするという形成者としての見方・考え方に課題がある。   | ・安全・安心な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実<br><br>・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた行内体制の充実 | ①光庭(中庭)の整美を児童委員会やコミュニティ・スクールの協働活動として実施する。<br>②児童会やコミュニティ・スクールによるあいさつや会釈の励行、廊下歩行キャンペーンを実施する。   | ①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が97%以上(昨年同等以上)になったか。<br>②学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が93%以上(昨年同等以上)になったか。                          | ①児童の清掃や委員会活動の指導はもとより、コロナ禍で休止していたSSNに係る「環境ボランティア」の活動を開始し、複数回の活動を実施することができた。学校評価は94%であった。<br>②小・中学生合同での挨拶運動を実施し、コミスクの共同活動としても位置づけ、総勢40人ほどでのあいさつ運動を行うことができた。学校評価は91%であった。 | A   | ①定期的な安全点検の確実な実施<br>②学校運営委員会等地域の方やPTAの方々へ校内の巡回等、移動の際に安全面を視点とした点検を行ってもらおう。<br>①②校内での移動における事故やけが防止の為に児童の自主的な活動の推進を図る。                             | ①小・中・PTA・地域が一体となった挨拶運動や中庭の整美活動は、よりよく学校教育と関わることができたと感じている。<br>②HPや学校だよりでの情報発信は継続して進めてほしい。<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・  |
|             |  |   |   |   |  |     |  |  |
| 3           | (現状)<br>○防犯ボランティア・緑化ボランティア・図書ボランティア等、自治会・育成会・PTAを中心としたスクールサポートネットワークからの支援を得ながら、地域と学校の協働活動が実施されている。<br>○コミュニティ・スクールの協働活動として、あいさつ運動や中庭の整美活動を実施している。<br>(課題)<br>○組織的・継続的な連携・協働体制には至っていない。   | ・協働体制による児童育成の状況を地域全体で共有するための広報促進<br><br>・支援から連携・協働体制への転換促進                    | ①本校のホームページでコミュニティ・スクールの協働活動情報を発信する。<br>②本校のホームページにおいて、学校行事等各コンテンツの内容に合わせた適宜更新を丁寧に行うことで、学校に関わる方が情報を収集しやすくなる。                                   | ①コミュニティ・スクール協働活動等の情報発信で広報を促進できたか。<br>②学校だより等の配信はタイムリーに効果的に行うことができたか。  | ①②学校だよりやHPでの配信し広く情報発信することができた。   | B   | ①コミスクや校内の特活部会のさらなる取組みにより、小中合同、地域一体となった挨拶運動の恒常化と児童の主体的な運動への移行を行っていく。<br>②HPや学校だよりの配信内容を充実させ、より多くの更新を行っていく。                                      | ①学校だよりやHPで学校の活動の様子がよく伝わってきます。<br>・・・・・・・・・・・・・・・・・   |
|             |  |   |   |   |  |     |  |  |
| 4           | (現状)<br>○職務遂行に係る教職員のスタンダードに基づいて共通行動を行っている。<br>○新たな学びのスタイルとなるICTの活用方法についてエバンジェリストを中心として研修を重ねてきた。<br>○高学年教科担任制の実施により、担当する教科についてより深く深い教材研究及び授業ができている。<br>(課題)<br>○さらなる職務の質の改善による効率化(働き方改革)<br>○ICT活用の促進と「主体的・対話的で深い学び」の学校課題研修を通じたさらなる具現化  | ・校務分掌担当業務の協議・遂行の充実及び校内教職員への周知の効率化<br><br>・資質向上に係る自己啓発力の促進                     | ①職員集会を週2回から1回にし、日報をより活用することと各校務分掌での職務を遂行する時間を増やす。<br>②文書起案の活用により提案・周知前の検討を効率化する。<br>③教職員事故防止チェック表を毎月実施して、自分の状況を振り返る機会とする。                     | ①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が96%以上(昨年以上)になったか。<br>②教職員事故防止チェック表の自己評価で肯定的な回答が95%以上(昨年以上)になったか。                          | ①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答97%であった。<br>②起案システムについては、徐々に浸透してきている。<br>③教職員事故防止チェック表の自己評価で肯定的な回答が95%以上であり、教職員事故の発生は0件であった。  | A   | ①課題研修を通じた、授業力の向上をねらいとした研究授業や研究協議をさらに積み重ねていく。<br>②校長室ケース会議や3行連絡帳連絡等の取組を継続して行うことで、管理職への風通しの良い体制による児童や保護者への適切かつスピーディーな対応ができるようになる。                | ①学校評価のルールの遵守やICTの活用結果は児童と保護者・教員間の格差の改善を。<br>②児童の学力向上へ向けて先生方の指導力の研修をしていただいていることはありがたい。  |
|             |  |   |   |   |  |     |  |  |